

鉄道は、古くから国内の都市間や都市内に縦横にネットワークを構築してきました。そのため、あらゆる場所で発生する地震の影響を避けることはできません。橋りょう、トンネル、土工から駅施設まで多様な構造物によって構成される鉄道の地震時の安全性を高めるためには、さまざまな時代に建設された構造物の安全性を確認し、構造物の特性に応じて対策することが重要です。今月の特集では「鉄道構造物の地震時の安全性を高

める技術」に関して、設計から診断、補強までさまざまな構造物を対象とした技術開発を6編の記事により紹介しました。

来月号の特集は「大型低騒音風洞を利用した鉄道の技術開発」です。鉄道総研が1996年に建設した大型低騒音風洞は、鉄道の安全や環境に関わる空気力学的課題の解決に寄与してきました。大型低騒音風洞の技術開発の変遷などを紹介しますので、ご期待ください。(N.I.)